

私のおすすめ

Movie IX

高橋泰英

高橋皮膚科クリニック（横浜市中区）

今回は我慢できずに自分のルールを破って、嫌いな映画も紹介しました。失礼しました。

『ゴジラ -1.0』

特にゴジラ映画が好きというわけではない私ですが、日米アカデミー賞を受賞したので怖いもの？見たさで映画館へ足を運びました。予想をはるかに超える作品でした。手作り感のある「特撮」は、ハリウッドのSFXとは一味違う「味」がありました。そしてあの伊福部さんの音楽、怖っ！ ただし、ゴジラファンの知人に言わせると、「あれは感動的な人間ドラマであっても、ゴジラ映画ではない」そうです。

『西部戦線異状なし』

レマルク原作の名作映画(1930年アメリカ製作)を90年ぶりにドイツでリメイク。最近の戦争映画でヒロイックに描いたものはあまりないですが、これは特に戦争の悲惨さを壮大でリアルな映像でこれでもかと見せられます。そして愚かさも。約2時間半、決して長くは感じませんが、心から疲れました。それにしてもあの長大な塹壕はどうしたんでしょうか。米国アカデミー賞美術賞を受賞したということは、CGでなく本当に作ったということか。

『フェイブルマンズ』

スティーブン・スピルバーグ監督の自伝的映画。初めて映画館で『地上最大のショウ』を観たサミーは、8mmカメラで映画を撮ることに熱中します。ここに登場する撮影テクニックはとても興味深いです（『カメラを止めるな！』もホラー映画の技を見せてくれました）。彼の成長が縦糸なら、横糸は家族の問題。母親役のミシェル・ウィリアムズは天真爛漫でエロくて哀しい役がお上手です（マリリン・モンローなど）。最後に巨匠ジョン・フォード（デイヴィッド・リンチ監督が演じてます）との出会いがあったのは驚きでしたが、巨匠の「地平線の描き方」についての講釈は賛成できませんでした。北野武監督『キッズ・リターン』の私が大好きなシーンは水平線がど真ん中にあるのが印象的だったし、他にも中心にあって安定した画面の方がいいということはあると思います。（渡邊憲先生、どう思いました？）

『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』

昨年の米アカデミー賞主要7部門を受賞した作品。映画の好みは十人十色なので、嫌いな映画については触れないようにしてきました。しかし敢えて言いたい。つまらない映画は好きな映画の10倍近く見ていますが、ここまで「大っ嫌いな」なのは『ダンサー・イン・ザ・ダーク』（これもカンヌ映画祭の最高賞受賞）とこれだけです。是非見て感想を教えて欲しいです。

『Mr. ノーバディ』

一見さえない中年男が、マフィアを相手に大暴れ。ひたすら暴力・破壊・殺人の連続ですが、あまりにあっけらかんとしているので不快感の入る余地なし。とはいっても平和主義者は絶対観ないでしょうね。

『ドリームプラン』

ビーナス&セリーナ・ウィリアムズ姉妹を世界最強のテニスプレーヤーに育てた父親の物語。破天荒な父親を演じたウィル・スミスは米アカデミー賞主演男優賞を受賞しましたが、授賞式で妻を侮辱した司会のクリス・ロックを平手打ちしたことも話題に。

『怪物』

小学校でのある出来事について、第1部「母親の視点」、第2部「担任教師の視点」、第3部「子供の視点」で描かれます。同じ人物の同じ行動が全く違う意味になり、人格も全く違う印象になります。「羅生門」の構造です。安藤サクラ、永山瑛太、子役2人など皆さん素晴らしい演技です。中でも校長役の田中裕子様の能面のような表情が怖すぎて、昔からファンである私は嫌いになりそうでした。

『ミセス・ハリス、パリへ行く』

第二次世界大戦後のロンドンに住む戦争未亡人の家政婦が、ディオールのドレスに魅せられてパリに行くための資金集めに奔走。なんとか本店を訪れましたが相手にされません。どうしてもドレスを手に入れたいミセス・ハリスに奇跡は起こるのでしょうか？

『犯罪都市 THE ROUNDUP』

2017年の「犯罪都市」の続編、文字通り犯罪映画です。主演のマ・ドンソクのアクションは日本刀の切れ味は欠片もなく鉦で叩き切る乱暴なものです、圧倒的な迫力で笑えるほどです。正直、マ・ドンソクが好き過ぎて評価が甘いです。好き嫌いが分かれるでしょう。

『M3GAN ミーガン』

ついにホラー映画にもAIが登場。コメディタッチも少し振りかけてあるので、ちょっと口当たりが良いと思います。因みに私のホラー映画ベスト3は、凍える怖さの『アザーズ』、切ない怖さの『ぼくのエリ 200歳の少女』、人間が怖い『エスター』（これだけは怖すぎて二度見る気にならず）です。

『ナポレオン』

暗い屈折した人間を演じたらこの人の右に出る者はないホアキン・フェニックス主演。監督のリドリー・スコットとは『グラディエーター』以来でしょうか。私はあの映画で初めてホアキンを知り、それ以来あの陰鬱を追い求めてきました。内容はナポレオンの半生というだけで、説明は不要と思います。この2人の映画でつまらんはずがないです。

以下の作品も面白かったですが、紹介は省略します。

『別れる決心』『オフィサー・アンド・スパイ』『無垢なる証人』『ある男』『ドリーム ～狙え、人生逆転ゴール！～』『ヴァチカンのエクソシスト』『君だけが知らない』『ハント』

新しい時代のプラネタリウム ～プラネタリアYOKOHAMA～

河原由恵

けいゆう病院（横浜市西区）

最近の日本では、よほど人里はなれた地域へ行かない限り、きれいな星空をみることはなかなかありません。特に首都圏では、かなり郊外で割合空気がきれいそうな場所でも、街灯や、ビル・家などの灯りが邪魔をして、冬季であっても「満天の星空」にはほど遠い現状があります。そう、オリオン座内の大星雲、プレアデス星団、北斗七星やカシオペア座が目視できればラッキーという具合です。夏に天の川を見つけることも至難の業でしょう。高校生の頃は渋谷の五島プラネタリウムや池袋のサンシャインシティのプラネタリウムによく出かけていました。オーソドックスな、季節の星空が投影され星座の説明をうけるタイプのものです。これらの「学習タイプ」ともいえるプラネタリウムは、近年残念ながら閉館となったところが多く、長いこと私は「プラネタリウム難民」となっていました。

そんな中、2022年3月、新型コロナでまだいろいろ活動制限があった時期に、プラネタリアYOKOHAMAがみなとみらい地区の端に開業しました。

高島町の交差点に近いところに新しいオフィスビルが建ち、その壁にそって、丸い大きな物体が隣接していました。都市ガスタンクのような形状をしていて、まさかこのビルは都市ガスを自給する？？ と思っていましたが、プラネタリウムでした。

「プラネタリア〇〇」は、コニカミノルタプロデュース・提供の新しい形のプラネタリウムです。現在全国に5カ所あります。前述のサンシャインシティのプラネタリウムも一旦2003年に閉館し、2006年コニカミノルタプロデュースで復活しています。地球儀にたくさんの小穴があいているような投影機はなく、LED投影による制御です。そして星座や天文学を学ぶための学習型ではなく、ストーリー性があるプログラムが1日にいくつか上映されます。星空に関係したミニドラマであったり、音楽とコラボしたり、宇宙旅行を疑似体験（photo spotが設定されていました）できる内容であったり、と多彩です。ぐっすり寝るための「熟睡プラネタリウム」などといったプログラムもありました。お気に入りの枕持ち込み可ですよ！ 個人的には星座や星のことを学ぶ「学習型」プログラムも懐かしいので、たまにはそういうプログラムもないかしら……とチェックしていますが、残念ながら今のところないようです。LEDなので、色彩豊かでとてもきれいです。どのプログラムも45分ほどなので、ちょっとした空き時間を気軽に埋めるのに向いています。大人向けのプログラムだけでなく、お子さん向けのプログラムもあります。

最寄り駅はみなとみらい線「新高島」ですが、横浜駅東口からも徒歩5分程度です（横浜市西区高島1丁目 2番5号 横濱ゲートタワー2F）。



横浜駅東口側からみた横濱ゲートタワー。奥に見える球体がプラネタリウムのドーム



プラネタリアYOKOHAMA 正面入り口

(おまけ)

新型コロナ禍初期に心を癒やしてくれた横浜美術館 (@みなとみらい) は、2021年3月よりリニューアルのため休館となっていたが、今年3月15日に再開館しました！ 6月上旬まで開催されている「第8回横浜トリエンナーレ」の会場の1つとなっています。この原稿を書いている4月は毎日壁一面の大きな絵が変化していています（毎日描き直される、という企画です）。

所蔵作品、著名な芸術家のものから新進気鋭の作家のものまでたくさんあるそうなので、今後の企画展に期待しているところです。

